

Feb. 21, 2015 : 波照間島日本最南端

ユウレイセセリとは実にユニークな和名だが、白水標準図鑑には「楚南仁博氏（1932年）の命名で、これは同氏が本種の学名を調べたときに、長いことその名前が分からず、〈正体不明の幽霊見たいなもの〉ということで名づけられたもの」（同氏私信による）との記述がある。

1993年を皮切りとした筆者の八重山諸島訪問は21回を数えるが、セセリチョウの仲間への関心がうすく、トガリチャバネセセリとよく似た本種については、いずれの種かどうかを確認することもなく見過ごしてきた。夏の暑い時期に南の島への旅行などとんでもない、と同行を拒んできた妻が、ようやくその気になってくれたのが2006年11月の沖縄訪問で、その後、2005年9月に石垣島と竹富島、2007年11月に石垣島と西表島、2012年12月に石垣島と与那国島、そして2015年2月に石垣島と波照間島訪問で、主要5島への訪問を達成したのだが、波照間島の日本最南端東屋で昼食をとっていたとき、目の前のシマアザミに吸蜜飛来したのが、初めて種名を確認できたユウレイセセリだった。



セセリチョウの仲間は、休憩中だとすぐにジェット戦闘機のような開翅姿勢を見せてくれるが、花の蜜を夢中で吸っている間に翅を開くことは少なく、結局、このときも翅表をみせてくれることなく飛び去ってしまった。